

生協10の基本ケアニュース vol.3

ご利用様が自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう、日常生活行為そのものをリハビリと捉えた自立支援を行っています。個々のケースに応じて「この利用者にとっての自立支援はどう考えるか」を日々話し合い、その方の想いに添った目標、それを実現するためのケアのあり方を「生協10の基本ケア」を通して共通理解を持つことで、統一したケアを実践しています。これまでの、取り組みを通して、ご家族様から頂いた声を紹介します。

利用開始当初は、他の方との交流はほとんどありませんでした。

職員のリクリエーションの誘いに応じることもなく、車椅子に座ったまま過ごされる日もありました。

一緒にしませんか？

「ご自宅での入浴が困難なため、1年前から、*機械浴のある「まるくな」で短時間での利用が始まりました。」

*機械浴（ストレッチャー浴）：座った姿勢での入浴が難しい方でも、安心して湯船に浸ることができます。

時間がかかっても、できることは手を出さずに見守り、少しずつ『歩行器で歩けるようになった』という前向きな言葉を言われるようになりました。

膝の曲げ伸ばしや脚を上げる体操の他にも、一日何度も車椅子から椅子に座り換え、脚の筋肉を使う回数が増やすようにしました。

理学療法士

ラジオ体操は参加されるから、脚の筋力を鍛えるための体操メニューを作ったらどうか。

筋力強化の効果がある体操については、専門的な知識がある職員に相談してみましよう。

「入浴だけではなく、何か私たちにできることはないか」と何度も話し合いを行いました。

そして、ついに普通の湯船に入ることができました。

今では笑顔が増え、表情もとても明るくなりました。

ふさぎ込んでいた方に声をかけるなど、他の方と関わる姿もみられるようになりました。

理学療法士

職員の声のかけ方も大事だと思う。

もう一度理学療法士に改善しているところを見てもらったら自信をもていただけるかも

湯船の出入りが不安。一番安全な介助の方法を話し合って統一しましょう。

これだけかが入れば大丈夫ですよ！

そこで、機械浴ではなく、普通の湯船に入ることに挑戦！

しかし・・・

怖いから今のままでいい。

その他にもたくさんの声を頂いています！

- ・家に帰ってもADL（日常生活動作）が低下していないので、トイレがスムーズに出来て助かりました。日頃から職員さんが体を動かして下さっているおかげだと思います。感謝しています。
- ・泣きやまない1歳のひ孫がおばあちゃんに抱っこしてもらおうと一瞬で泣き止みご機嫌に。その日は一緒にベッドで寝てもらい、おばあちゃんに助けられた一夜でした。施設に行かず在宅で生活できるからこそ、本人の良い所を生かしたワンシーンでした。
- ・初めは介護負担が大きく施設入所を希望されていましたが、輝を利用するようになり、本人はもちろん奥様にも笑顔が戻りました。先口、息子様に看取られ息を引き取られました。奥様から『主人の介護と看取りができたこと誇りに思います。輝にお世話になった分、ボランティアを通して他の利用者様に恩返ししたい』とお話して下さいました。

これからも想いに寄り添っていきます！

現在も理学療法士が状態を確認しながら、体幹や上肢を鍛える体操を継続されています。

体操以外でも取り組めることをご本人の意向を伺いながら進め、『歩行器で歩きたい』という想いを叶えるために、取り組んでいきます。